



公共施設等適正化基本方針とは

近年の人口構造、市民ニーズの変化に加え、高度経済成長期に建設された多くの施設が更新時期を迎えるなど、本市の公共施設等を取り巻く環境は、大きく変化しようとしています。

このような中、国は中央道笹子トンネル天井崩落事故に端を発する公共施設等の老朽化問題に対して、「国のインフラ長寿命化基本計画」(H25.11)を策定し、本市においても、平成26年度に「嘉麻市公共施設等適正化基本方針」を策定しました。

本市の公共施設等におきましても、計画的な改修、適切な建替え等を実施していく必要がありますが、公共施設等の大半が、昭和40～50年代に集中的に整備されていることから、その更新時期も集中し、一時期に莫大な財政支出が予想されるところです。

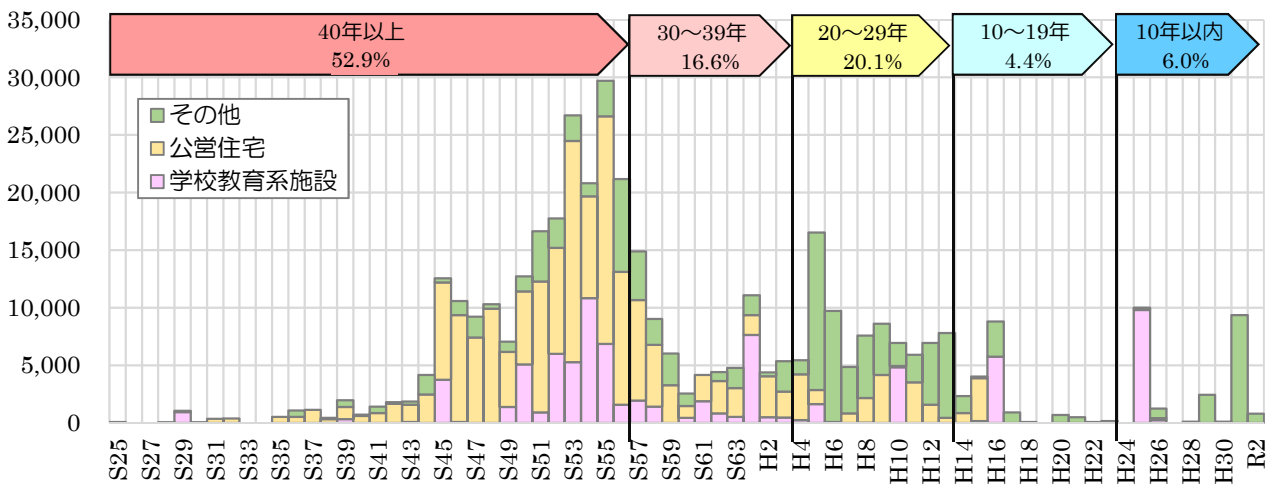
そのため、公共施設等の保有量を縮減し、現存している公共施設及びインフラ資産の長寿命化を推進し、計画的な維持管理、修繕を実施していきます。この取組みを総じて「公共施設等の適正化」として実施していき、安全で市民にとって必要な公共施設等の運営を図り、かつ一時期に集中して発生する費用負担を平準化させ、次世代への負担を可能な限り軽減することを目的とします。

I. 対象施設

ページNo. 7-2~3

公共施設

市が保有している公共施設の延床面積は計400,499㎡です。平成18年3月に1市3町で合併し、旧市町で建設した公共施設を引き継いでおり、合併して17年が経過した現在においても多くの公共施設を保有しています。



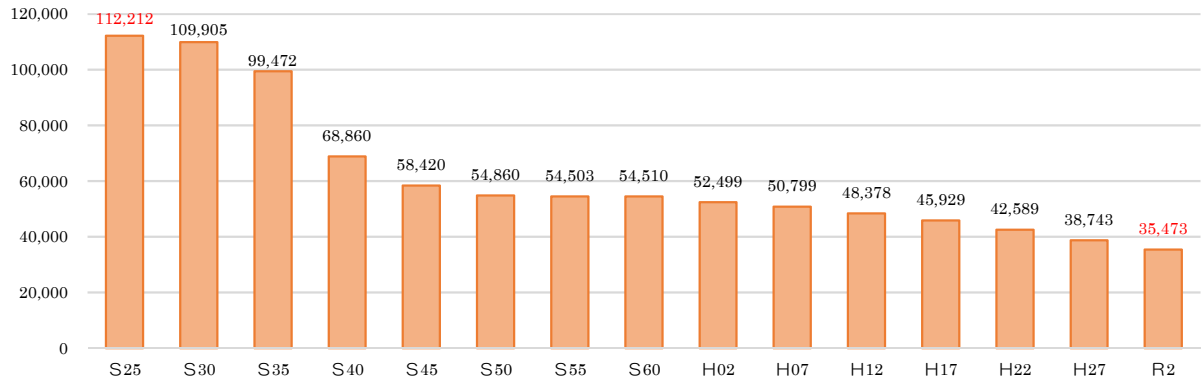
インフラ資産

インフラ資産としては、道路、橋梁、上水道を対象としています。

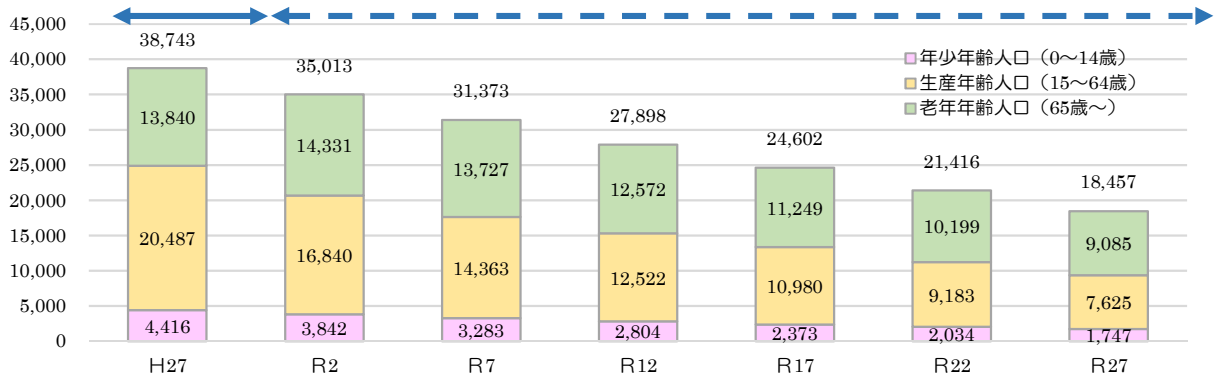
種別	分類	施設数		
道路	1級(幹線)市道	実延長計	73,355.6m	面積 666,464.98㎡
	2級(幹線)市道	実延長計	62,552.2m	面積 435,299.82㎡
	その他の市道	実延長計	386,047.8m	面積 1,973,680.38㎡
	自転車歩行者道	実延長計	34,409.6m	面積 105,219.89㎡
橋梁	—	実延長計	3,996.7m	面積 25,809.31㎡
上水道	—	導水管計	6,120m	送水管計 11,530m 配水管計 335,530m

人口動向

本市の人口総数は70年間で約7万6千人、約68%が減少しています。



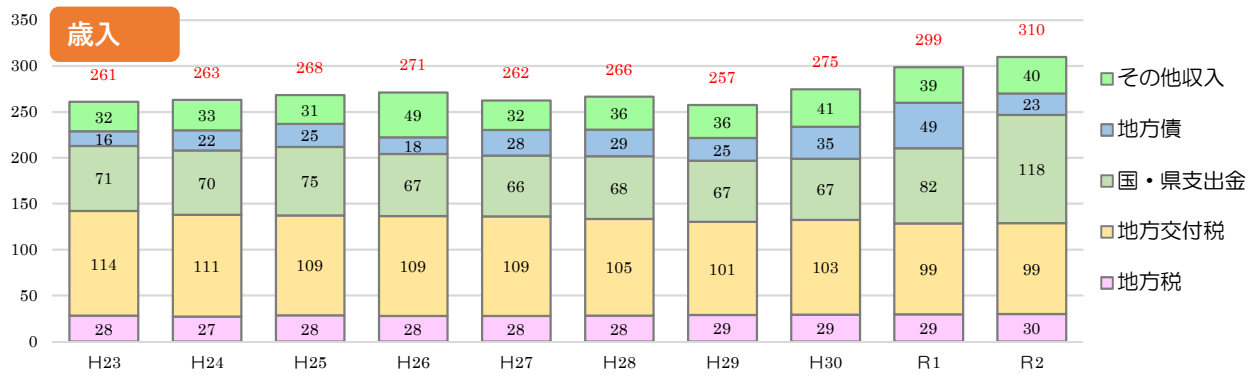
将来の人口推計においては、今後も少子高齢化は進展し、市の人口構成が大幅に変化していくことになります。



嘉麻市の財政状況

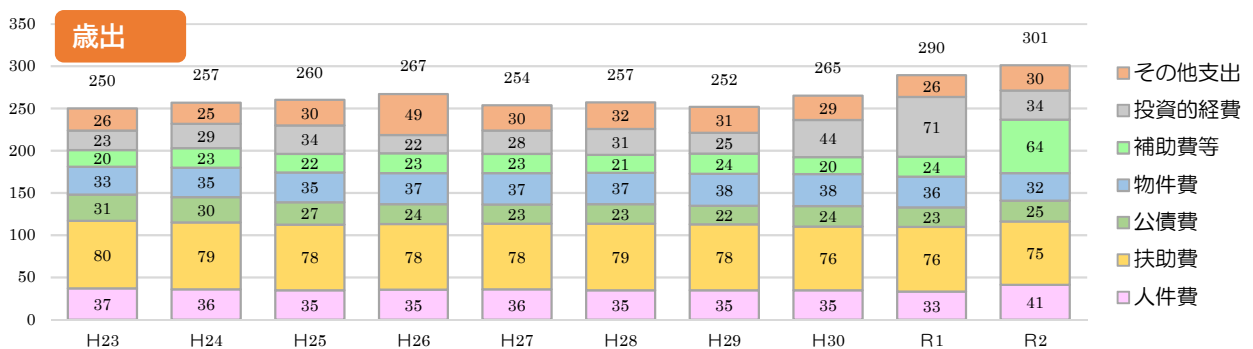
市税等の自主財源が少なく、国・県からの地方交付税や補助金等に極端に依存したぜい弱な財政構造であることが分かります。

(単位：億円)



義務的経費（人件費、扶助費（福祉に関する経費等）及び公債費（地方債の返済金））の割合が高く、硬直した財政構造となっています。

(単位：億円)



公共施設

公共施設の更新等に係る経費の見込み額を、単純更新型と長寿命化型を比較し、対策の効果額を試算しました。

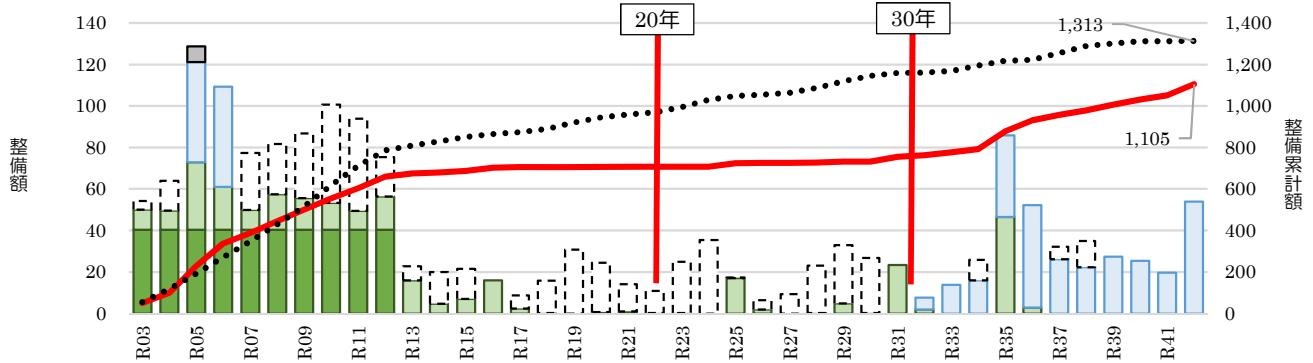
単純更新型…施設の耐用年数到来の翌年度に更新金額を計上

長寿命化型…築 30 年目に大規模改修、築 60 年目に建替え工事を実施する
 （※その他詳しい試算条件については本編をご覧ください。）

従来型と長寿命化型を比較すると、令和 42 年度時点で約 **208 億円**の削減効果が見込まれます。

施設ごとに目標耐用年数を設定し大規模改修など適切な長寿命化対策を実施することにより、安全に施設の長期使用が可能になります。また、中長期的な更新金額の削減が見込まれ、さらに、複合化・集約化・統廃合を行うことで施設保有量を削減し、施設のランニングコスト（維持管理経費）の圧縮も期待されます。

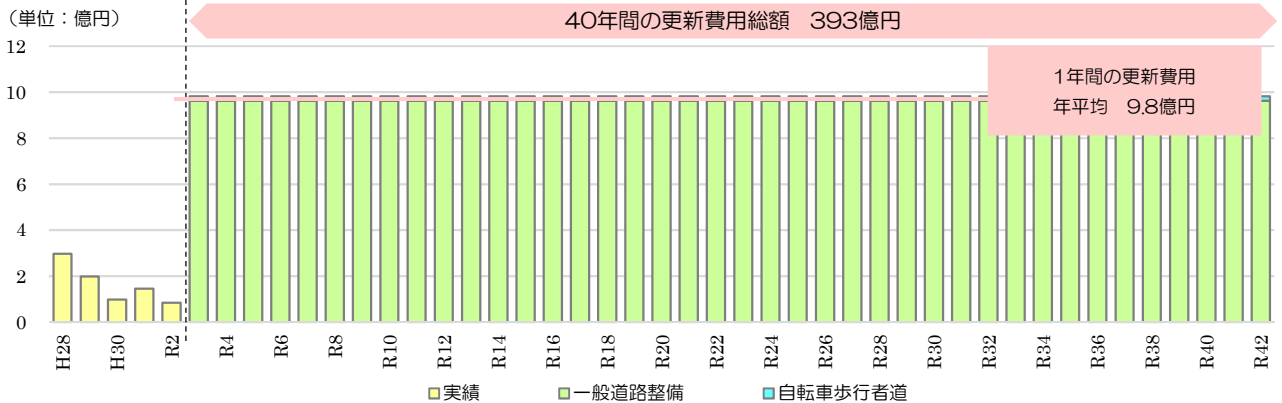
（単位：億円）



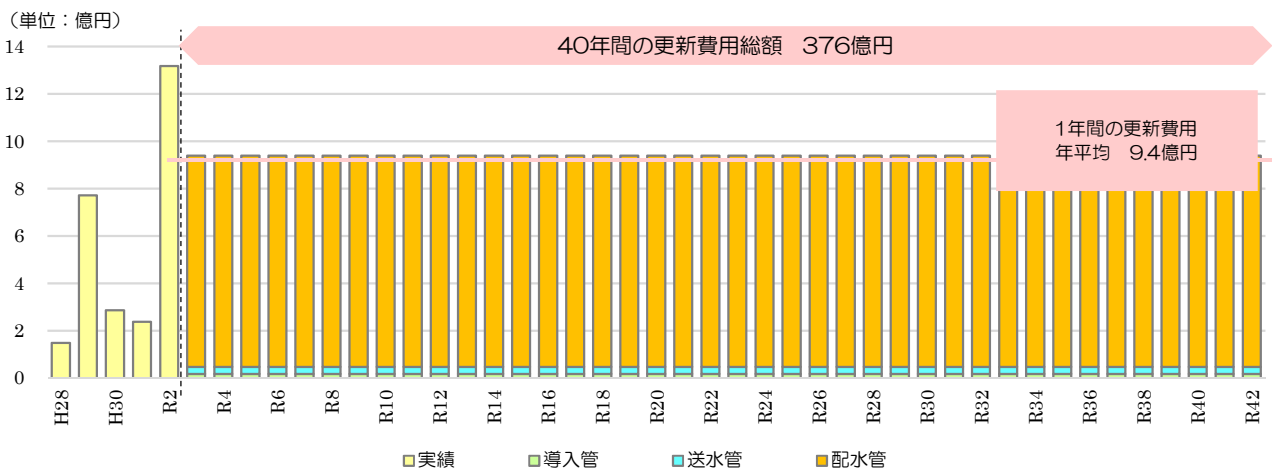
インフラ資産（道路、上水道）

インフラ資産の更新等に係る経費の見込み額は以下の通りです。
 （※それぞれの試算条件については本編をご覧ください。）

道路…1 年間の更新費用は約 9.8 億円、40 年間の更新費用総額は約 393 億円

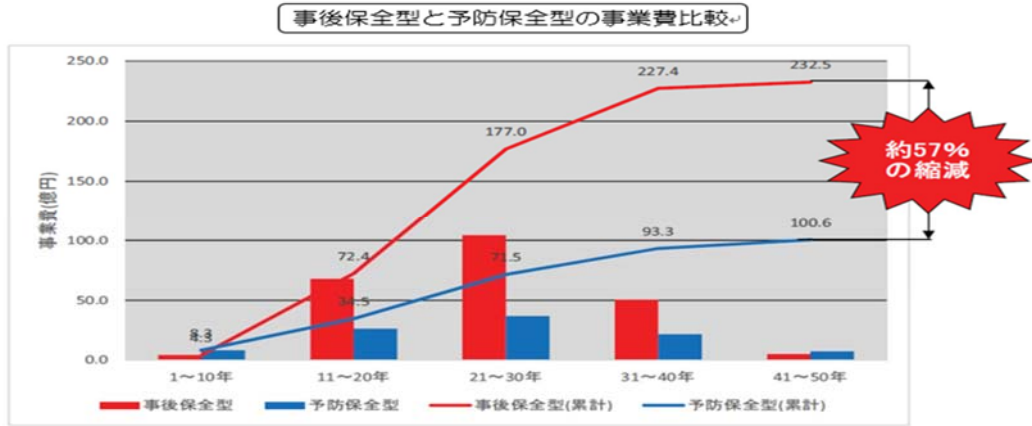


上水道…1 年間の更新費用は約 9.4 億円、40 年間の更新費用総額は約 376 億円



インフラ資産（橋梁）

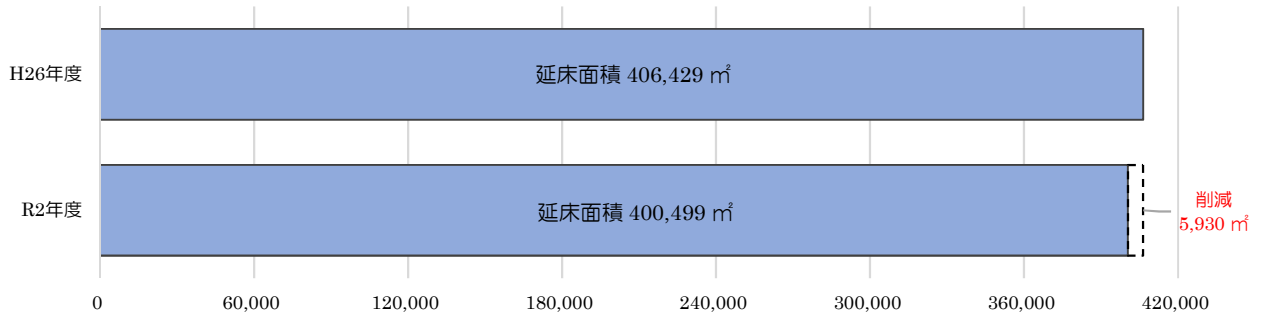
橋梁長寿命化修繕計画を策定する 374 橋について、今後 50 年の事業費を比較すると、予防保全型は事後保全型に比べ約 57% のコスト削減が見込まれます。



IV. 参考資料

削減実績

平成 26 年度から令和 2 年度までの 6 年間で 5, 930 m²削減が進んでいます。また、令和 3 年度には 11 施設の解体及び売却を行いました。今後は更なる施設整備量削減に向けた取組を推進していきます。

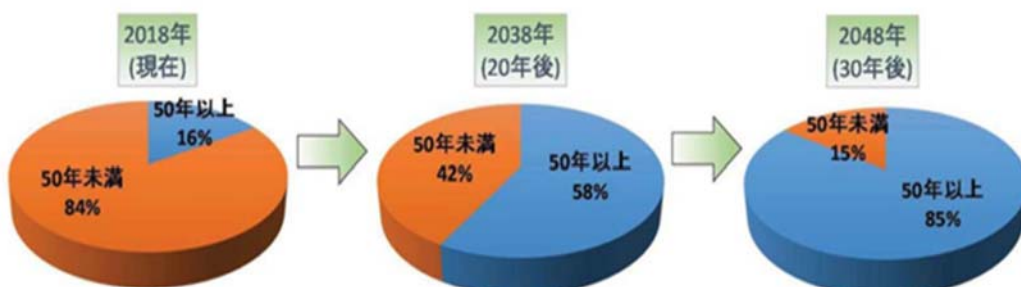


公共施設等老朽化の推移

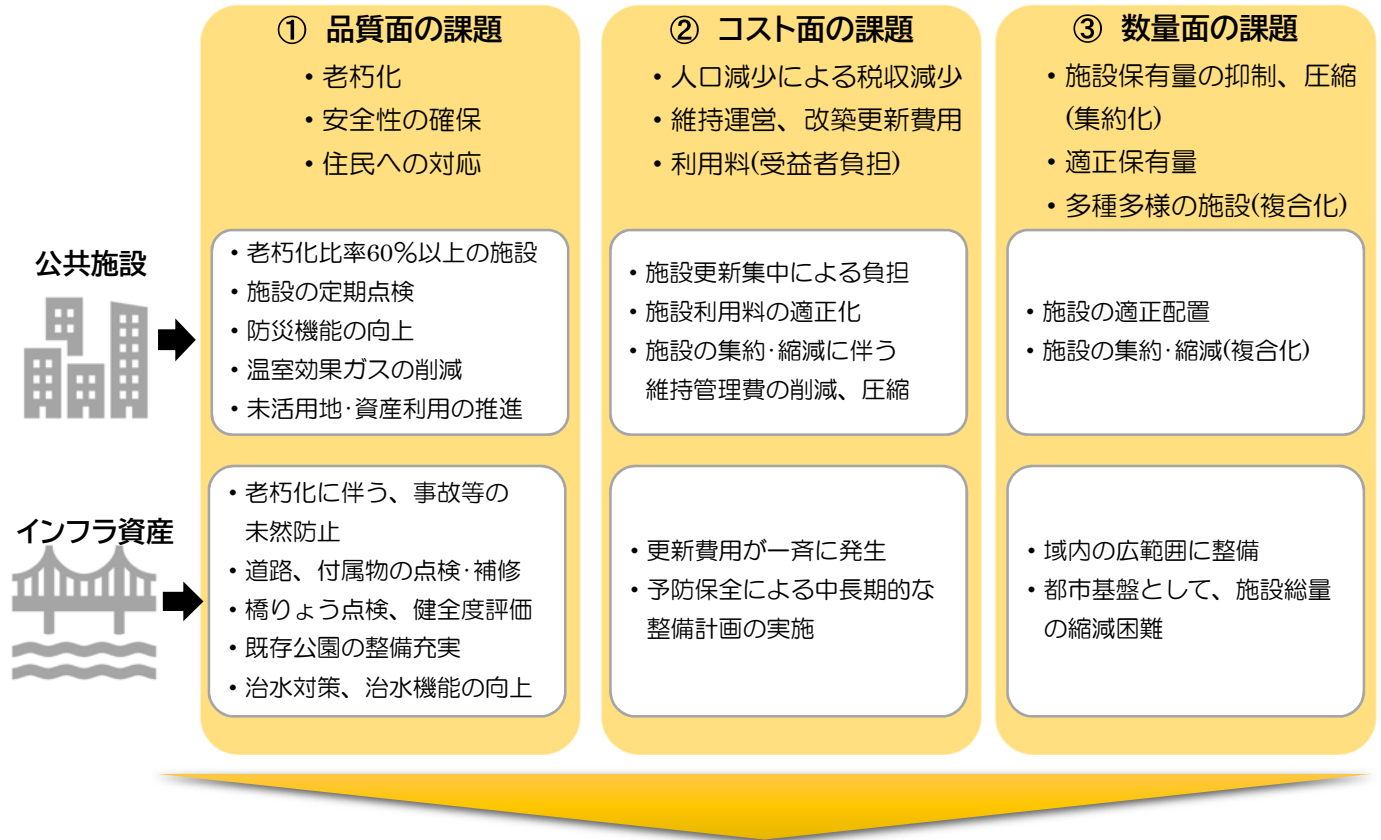
令和 2 年度の築 30 年以上の公共施設は 69.6% を占めています。現行同様に老朽化が進行した場合、10 年度の令和 12 年度には 93.7% になる見込みです。



橋梁長寿命化修繕計画の対象橋梁は全 374 橋あり、平成 30 年度時点ですでに建築後 50 年を経過している橋りょうは約 16% を占めています。今後 20 年度にはこの割合が約 58%、30 年後には 85% を占め、急速に橋梁の高齢化が進むことが明らかになっています。



公共施設等の現況把握及び見通しについて検討した結果、公共施設等を取りまく課題は、大きく以下の3つに分けられます。



上記のような課題を踏まえて、これまでも公共施設等に関する計画を策定、推進してきました。今後も本計画と合わせて、公共施設等のマネジメントに取り組んでいきます。

施設管理の考え方、基本方針

1. 公共建築物の集約・再編と生活利便性の維持の両立
2. 個別施設計画の策定
3. 民間活力の導入
4. 修繕、更新履歴等を蓄積し老朽化対策に活用

総合計画など

1. 豊かな暮らしを支える活力あるまちづくり
2. 誰もが健やかに暮らせる福祉のまちづくり
3. ふるさとに誇りを持てる教育・文化のまちづくり
4. 自然と共生する安全・安心なまちづくり
5. 市民と行政による協働のまちづくり

本市の公共建築物は、昭和40～50年代に建設されており、同時期に建設された多くの公共施設は老朽化が進んでいるため、危険施設とならないように今後も適切な施設維持管理を図ります。

インフラ資産においても、ライフラインの根幹となるため、老朽化のタイミングを適切に判断し、中長期的な計画に沿った更新整備を図ります。

少子高齢化社会による扶助費等の社会保障費の増加や、人口動向の変化に伴う税収の減少も懸念されます。計画的な基金の積立や、施設の集約化等による施設維持管理費の削減に努め、財源確保と合わせて支出の抑制を図ります。

出典元及び参照資料一覧（一部抜粋：概要版記載分）

- 総務省統計局「国勢調査」 ●国立社会保障 人口問題研究所「将来の地域別男女5歳階級別人口（2015年は国勢調査による実績値）」 ●福岡県「市町村財政状況の推移」 ●嘉麻市令和2年度固定資産台帳 ●嘉麻市橋梁長寿命化計画